

「運動型デイ」「リハビリ特化型デイ」の展開

脳梗塞後遺症特化型・完全マンツーマン保険外リハビリサービス「脳梗塞リハビリセンター」を開設



株式会社ワイズ
代表取締役会長兼CEO
早見 泰弘

施設の概要

- 通所介護：アルクル5事業所、脳梗塞リハビリセンター7施設
- 定員：アルクル9～12名/1日2単位

機能訓練に力を入れるデイが増加し、「運動型」「リハビリ特化型」というだけでは顧客の獲得は難しくなっています。さらに今後、要支援者が総合事業に移行することによって、「運動型」「リハビリ特化型」デイの現状はますます厳しくなっていくと予想されます。本連載では「運動型」「リハビリ特化型」デイとして生き残るためには、今現在の限られた時間やスペースの中で、どのような取り組みをするべきなのか、先進的な施設の事例を通してお伝えしていきます。

介護保険のリハビリでは、増え続ける脳卒中後遺症の方への対応が不十分であるという現実

当社では、2014年2月の会社設立直後に「いつまでも自分の足で歩く」をテーマとしたリハビリ特化型デイサービス「アルクル」を都内で開設し、運営してきました。1日平均利用者数（1事業所）16名で、開設から2016年6月までの延べ利用者数は約7,000人と順調に増加し、東京都に5施設と拡大してきました。

しかし、デイサービスの運営を通じて、次のような課題を感じていました。

- ①介護報酬には定期的な見直しがあり、トレンドとして減額が続いている
- ②当社デイサービスには脳梗塞による後遺症を抱えた方が多く、特に40～60歳代の若いご利用者が多い
- ③グループリハビリが中心で、個々の状態に合わせた個別機能訓練の時間が少ない

そして、多くのご利用者から「もっとリハビリをしたい」「マンツーマンで自分の状態に合わせたリハビリをしたい」といった切実な声が寄せられていました。

脳卒中の後遺症に対する退院後のリハビリ環境は、主に病院外来でのリハビリ、介護保険適用可能な介護保険施設（デイサービスなど）、訪問リハビリがあり、各々の課題として次のようなものが挙げられます。

脳卒中の後遺症に対するリハビリ環境の課題

- 現在の制度では、病院での入院リハビリには保険適用の期間が最大180日と日数制限がある
- 病院外来のリハビリでは、保険点数の兼ね合いで週1回のリハビリ時間は40分程度と限られている
- 介護保険施設（デイサービスなど）では、グループリハビリが中心で、個別機能訓練の時間に制限がある
- 訪問リハビリでは、必ずしも脳梗塞のスペシャリストが施術をするとは限らない。また、リハビリ機材がないため、リハビリ内容が限定的になってしまう

こうした環境では、脳卒中の後遺症に悩むご利用者の中でも、特に60歳代以下の勤労世代を中心に、個々の症状に合ったニーズ（職場復帰など）に対応しきれていないことに気が付いたのです。

そこで当社は、脳血管疾患の後遺症を抱え、退院後もリハビリが必要とされる150万人をターゲットに、退院後のリハビリの新たな選択肢として、病院でもデイサービスでもない、まったく新しい保険外リハビリサービスを提供する事業モデル「脳梗塞リハビリセンター」を2014年9月に開設しました。

キーワードは「保険外」。 介護保険ではできない、ユニークなリハビリサービスの提供を開始

「脳梗塞リハビリセンター」の特徴として、ご利用者の個々の状態や目標に合わせた、完全マンツーマンによるリハビリサービスを提供しています。

リハビリ内容は、鍼灸師による鍼灸や、理学療法士・作業療法士などによるコンディショニング・運動トレーニング・言語聴覚療法といった、脳血管疾患領域（脳梗塞・脳出血など）のスペシャリストであるスタッフによる施術を組み合わせた、保険外だからこそ可能な総合リハビリテーションサービスとなっています。

また、リハビリをただ漫然と行うのではなく、延べ1万回以上のリハビリ実績から独自に開発した、ご利用者の状態を可視化するための123項目で構成されているリハビリ評価メソッド「123 Step Up シート」（図1）に基づいて、改善目標の設定やリハビリプランをご利用者ごとに設計します。改善のPDCAサイクルを回すことで、ご利用者からも「納得してリハビリに取り組める」と好評をいただいております。

当センターのリハビリプランは、施設でのリハビリだけにとどまりません。『60日間改善リハビリプラン』と称し、カウンセリング・施設内リハビリ（全16回）・自宅リハビリサポート（自主リハビリ計画および自主リハビリ課題（図2））を60日間切れ目なくみっちり行うプランとなっており、最短で最大の効果を目指した非常にユニークなリハビリを提供しています。

利用者は累計1,400人を超え、 今後も施設拡大やITを活用したサービスを展開予定

「脳梗塞リハビリセンター」は、2014年9月開設の本郷（東京都文京区）を皮切りに、2015年5月までに新宿（同新宿区）、三田（同港区）、川崎（神奈川県川崎市）、西船橋（千葉県船橋市）、2016年10月には立川（東京都立川市）、2016年12月に大宮（埼玉県さいたま市）、計7施設を直営でオープンしました。1日平均利用者数（1事業所）8名で、累計1,400人を超えており、日々リハビリニーズの高さを実感しています。一方で当センターのような施設が少ないことから、北海道から沖縄までの全国から当センターへ通ってこられる方も多くい

60日間改善リハビリ

施設リハビリ 1回120分・全16回	料金 ¥275,000	自宅リハビリ 60日分
● 計画に基づいたマンツーマンリハビリ、鍼灸、PT・OTによる施術 ● 個別リハビリ計画（123 Step Up シート）		● 施設リハビリに連動した自主リハビリ課題 ● ご家族向け介助指導・相談

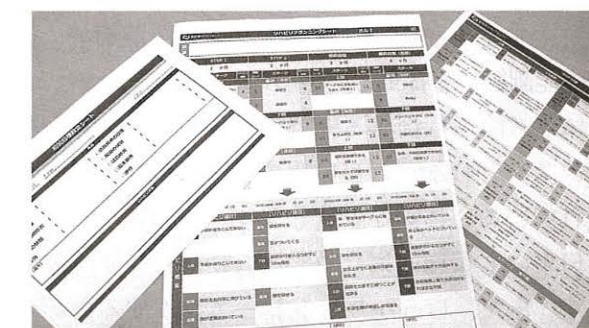


図1 123 Step Up シート

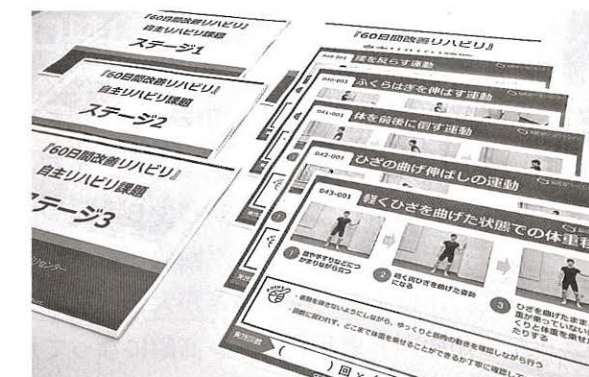


図2 各ステージに合わせた自主リハビリ課題

らっしゃいます。

最近では徐々にセンターの認知度が広まってきており、病院やケアマネジャーからのご紹介も増えてきています。

今後、施設へ通えない離島などの遠方の方も含め、さらに多くの脳血管疾患を中心とした後遺症に苦しむ方たちのお役に立てるよう、当センターで培った個々の状態を可視化するリハビリ評価メソッドを、オンラインコンテンツに取り入れて提供するなど、ITの活用による在宅でも可能なリハビリサービスの提供も視野に入れています。